

基に高齢者や障がい者への医療・介護・予防等の一体的な支援を提供する「地域包括ケア体制」を推進するとともに地域に根差した福祉活動の活性化を図ります。

しかし、コロナ禍の拡大が区長や民生委員の地域活動を困難にする状況が生まれ、人と人、人と地域のつながりの分断が懸念されています。本町においても孤独死が発生する悲しい現実もあり、新たな見守り対策につながる実践的な取り組み（トイレの電球の点滅とスマートフォンとの連動により離れた場所でも生存の確認ができるシステム）も他に先駆けて実施されたばかりです。

また、心配される障がい者の就業と定着への支援を検討してまいります。極めて困難な課題としては、医療の提供を受ける重度障がい者の居場所が仙南には存在しないことがあげられます。県への働きかけや、広域的な取り組みを進めます。

## 6 安心して産み育てられる子育て環境づくり

開所を含めた民間保育所への支援により待機児童の解消を図ります。

多様な保育需要に応えるべく、老朽化した桜保育所の建て替えが進行中です。

◀建て替え中の桜保育所



また、18歳までの所得制限のない医療費全額補助を維持し成長に合わせた支援体制の整備に取り組み等、子育てのブランド化に向けた施策の展開を図ってまいります。

本町の持つ特徴としてひとり親世帯の増加傾向がみられますので、貧困の実態把握につとめながら具体的な支援策についての検討が急がれます。

## 7 桜のプロジェクトと河川敷の活用

本年6月に念願叶って観光物産協会の法人化が実現しました。インターネットの活用や実践的な営業活動を通し、自立につながる活動に取り組んでまいります。

また、一目千本桜を中心としたまちの様々な資源を磨き、信頼・誇り・情報発信の向上に結び付け、総合的なまちづくりのブランド化により誰からも「選ばれるまち」を目指します。主な取り組みとしては、

- 1 一目千本桜を活用したシティプロモーション
  - 2 地場産品など「食」を中心とした商品付加価値化
  - 3 結婚促進・子育て支援・移住定住支援等の実施
  - 4 白石川右岸河川敷整備等、交流拠点、施設の整備
  - 5 サイクルツーリズムやリバースポーツ等の広域的な拠点整備
- に積極的に取り組みます。  
特に白石川右岸河川敷整備については県が堤外地（川側）を町が堤内地（田んぼ側）を整備するコラボ事業として設計段階から県の支援を受けています。天端（土手上）のサイクリングロードとウォーキングロードの舗装を始め、パークゴルフ場（3コース）、ドックラン、桜の木を

残した公園化（桜の小路）など具体的な活用が計画されています。堤内地については、新たな桜並木（開花時期の異なる種類）の植栽や拠点施設となる建物の検討やトイレの位置についても順次決定されていくこととなります。整備が進めば仙南地域全体の賑わいの拠点として大いに貢献できるものと期待を寄せているところです。また、国の「国土強靱化」に関わる予算措置により本町の負担が大幅に軽減されています。

## 8 地域産業の活性化と働く場づくり、起業・創業支援

仙南地域に存在する県の指定商圏は「大河原商圏」が一つ存在するのみです。かつては柴田・角田・白石にも独自に商圏がありました。が全て消滅してしまいました。シヨッピンセンターや国道4号バイパス沿いへの商店張り付きにより、本町の商業売上高も順調に伸び、交通の要衝であることと合わせ仙南全体の賑わいの拠点であることが重要な特徴となっています。

町土が狭く農業の振興や企業誘致には限界がありますが、食の開発と農工商連携のモデル事業に向けて、新たなアイデアと具体的な実践例が生まれることが求められています。



▲職員を前に訓示を述べる齋町長

また、アイリスオーヤマ(株)の工場拡張は、多数の雇用を創出し東北創業の地としての復活が強く印象付けられることとなりました。

農業については、担い手の育成と、ほ場整備の推進が重要な課題として認識され着手に向けた作業が進められているところです。

## 9次世代につながる学校教育 と多様な学びと生きがい づくり

教育のブランド化を目指し「大河原方式」による確かな基礎を学ぶ教育により、特に小学生は県下トップクラスの学力を維持しています。ま

た、中学生も「おおがわらの学力向上3本の矢」を土台に着実な取り組みにより成果をあげつつある現状です。さらに、夢を育む「志教育」や仙台大学との連携による体力向上への取り組みも推進しています。

子どもたちを取り巻く家庭環境が厳しい(貧困等)状況に対する支援にもつながるよう町独自の教職員配置を今後とも継続し、合わせて就学援助・育英・奨学金等の学び支援のセーフティネットの構築にもつとめてまいります。本町の教育現場では、早い段階からICTの導入及び活用の推進を図っており、GIGAスクール構想の運用も早期に実現する運びになっています。それと同時にさらなるICT環境整備(デジタル教科書・タブレットドリル)や家庭学習通信機器整備事業として、家庭への通信環境整備も進める予定とされています。

現在まで教育環境整備のハード事業としてはエアコン設置が終了し、各校のトイレの洋式化や大河原中学校の体育館建て替え事業が進んでいます。そして、生涯学習への取り組みとしては、以前より考えてきた「生涯学習の里構想」の実現に向けて、具体的な検討を始める予定とされています。生徒数の減少傾向が明確

となった時には、いずれ町内2つの中学校の統合の議論が求められることは必然と受け止めています。将来的には既存の教育施設を活用して生涯学習の拠点施設の整備を進めることもできるのではないかと考えています。また、本町には、文化財の保護団体や「佐藤屋プロジェクト」のようなまちづくりにつながる活動をしているボランティアグループも存在しており、町としても継続した支援を行ってまいります。

## 10 地方創生の推進とSDGs Society 5.0 実現に向けた先端技術を活用

まち・ひと・しごと創生法に基づき、人口減少や地方創生への対応として本町でも「大河原町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定してまもなく5年が経過しますが、その継続策として国は第2期地方創生の考え方を昨年12月に閣議決定しています。これを受けて本町の第2期総合戦略では、第5次長期総合計画の成果と反省を引き継いだ6次長総の特に政策分野を超えて取り組む人口減少の克服と、地方創生の重点プロジェクト「一目千本桜プロジェクト」

の推進を図り、新規に着手する事業及び現行事業の継続・強化を進めているところです。

今後町が取り組む国の示す地方創生の新たな視点の中で「地方とのつながりを築き、地方への新しい人の流れをつくる」という基本目標に着目し、地方に於けるSociety 5.0(サイバー空間Ⅱ仮想空間とフィジカル空間Ⅱ現実空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会)の実現に向けた技術の活用を強力に推進するとともに、継続可能な開発目標(誰一人取り残さない)継続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のため、2030年を年限とする17の国際目標を原動力とした地方創生に取り組むこととしています。

以上、これまでの経験と皆さまから寄せられた思いを結集した重点プロジェクトを掲げさせていただきました。

人と人をつなげることに徹しながら、「ひと・まち・桜が咲き誇る先進のまち」を目指して、町民の皆さまと共に歩みながら、これらの大切な政策を進めてまいりますので、今後ともご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。